

6 章 2017 年度 COC+事業

3 大学合同報告会「プラットフォーム」

COC＋就職説明会



地（知）の拠点大学による地方創生推進事業 COC+「子育て高齢化対策領域」
平成29年度 神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学

3大学合同報告会

参加無料 定員120席

日時 平成29年10月14日（土） 開場 13:00
開会 13:30

会場 生田文化会館 大ホール

地下鉄「県庁前」西3出口より徒歩5分
JR・阪神「元町」西改札口より徒歩10分
神戸高速「花隈」東改札口より徒歩10分

目的

現在兵庫県は少子高齢化に伴う人口減少が加速しており、地域での子育て支援や高齢化対策は急務です。この報告会では、医療福祉専門職養成課程を有する3大学が、これまで培ってきた地域社会形成のための教育研究の成果・知見を持ち寄り情報共有を図ります。



- 第1部 COC+ 概要説明／知っていますか？兵庫県～地域創生って何だろう～
- 第2部 学生発表／専門職学生として地域活動で学んだこと
- 第3部 ポスター掲示・情報交換会

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業 COC+とは？

地方創生に関する文部科学省の公募事業で、兵庫県では『地域創生に
える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム』事業が採択されました。
事業協働機関が一体となって地域の課題解決に取り組みます。

【事業協働機関（ひょうご神戸プラットフォーム協議会）】

神戸大学・兵庫県立大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学・兵庫県・
神戸市・神戸商工会議所・兵庫県経営者協会・兵庫工業会・神戸新聞社



MUSUBU

事前申し込み・お問い合わせ

神戸大学大学院
保健学研究科地域連携センター
（担当：藤本）まで

FAX 078-796-4526
E-mail hokencocpuls@gmail.com

【事前申し込み】

ご氏名・ご所属・ご連絡先
（お電話・FAX・E-mail）を
ご連絡ください。

主催／神戸大学大学院保健学研究科地域連携センター・神戸市看護大学・園田学園女子大学 共催／ひょうご神戸プラットフォーム協議会

3 大学合同報告会 「プラットフォーム」

2017 年 10 月 14 日（土）に生田文化会館に於いて、神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学による合同事業報告会を開催しました。少子高齢化に伴う人口減少が進む兵庫県において、地域での子育て高齢化対策をどのように進めるか、このプラットフォームでは各大学で行われている教育の成果を持ち寄り、情報共有することを目的に開催されました。本年度の合同報告会では、学生が中心となって企画することとし「専門職学生として地域活動で学んだこと」をテーマとし、学生の発表とポスター掲示・情報交換会を行いました。本学からは、看護学ゼミナール（4 年生・選択科目）で COC 関連科目を選択した 17 人の学生が参加し、「地域活動で学んだこと」「地域活動での学びを実習でどう活かしたか」をテーマに発表を行いました。

発表内容

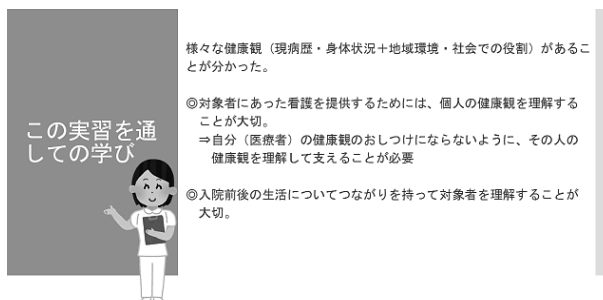
健康生活支援学実習で学んだこと	神戸市看護大学 4 回生
地域活動での学びを実習でどう活かしたか	神戸市看護大学 4 回生
食育 SAT システムを用いたライフステージ別地域住民に対する適切な食事選択の構築指導について	園田学園女子大学食物栄養学科 2 年生
母子保健における保健師の役割—様々な職種がいる中でなぜ保健師が必要なのか—	園田学園女子大学人間看護学科 4 年生
Active Area of Occupational Therapist	神戸大学作業療法学専攻 2 年生
産後女性に対する取り組み—産後のマイナートラブルについて—	神戸大学大学院博士前期課程

本学学生の発表

「健康生活支援学実習で学んだこと」

尾西菜乃、大石美和、北原みや、小林真子、酒井歩、佐藤優佳、春口芽生、山本茉優、山之内麗奈

2 年生後期で履修した健康生活支援学実習での学びについて事例をもとに発表を行いました。実習では教育ボランティアの募集や調整に加え、自身も教育ボランティアとして参加してくださる民生委員の役割についての学び、世代間の交流の重要性や専門職として、住民が活動を行う場へ出向き、地域で住民とかわりをも





つことで様々な世代への支援を行っていることを報告しました。会場からは、園田学園女子大学で保健師課程を選択した学生から、「地域住民はいろいろな考えを持っているというのが当たり前だけど、それに気付くことは地域に出てできるので、同じような学びを得ているんだなと感じた」、神戸大学理学療法学専攻の学生から、「自己関連QOLについて調べていて、地域の方にとって何がよいの

かをお互いに理解していくことが重要だというのが、この発表からもわかった」という感想がでました。

「健康生活支援学実習での学びをその後の実習でどう活かしたか」

伊崎愛、岡本真優、川端千穂、木島郁美、細川可奈子、三木絵美奈、岡本ひかる

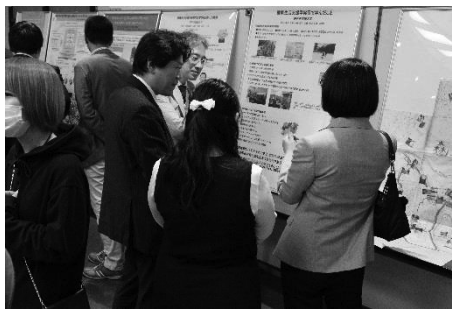


健康生活支援学実習での学びから、地域住民の暮らしを理解し、そこから病院における実習での学びにどのようにつながっていったのかを、退院支援に着目して発表を行いました。病院では病気に着目したケアに陥りやすいが、対象者の生活の背景を理解することや、退院後も安心して地域で生活していくこと、健康観を尊重することについての学びを振り返っていました。

会場からは園田学園女子大学の1年生から自分は地域に出る機会がまだないが、今まで実習を通して、地域での学びでこうすればよかったと思ったことはあったかといった質問がでました。

ポスター発表・情報交換会

情報交換会では、学生が作成したポスターをもとに自由に交流ができる機会を設けました。他大学、他学部との学生と交流するよい機会でしたが、本学学生はやや消極的な様子で、教員が仲介しないと、質問、感想を述べ合うのが難しい様子でした。もっと主体的に他大学学生との交流、情報交換ができるよう、COC+事業を通して身につけてほしいです。



参加者アンケート（概要）

115 人の参加者のアンケート結果について、COC+事業校の神戸大学より報告内容を一部ここで抜粋して報告します。

アンケート回答者数：68 人

1) 学生発表についての感想

非常に満足：16 人、満足：41 人、ふつう：10 人、やや不満：1 人

満足の理由・・・他大学・他専攻でどのような活動が行われているかを知ることができた。

他職種からみた地域での問題点の視点が興味深くアプローチ方法が多彩で勉強になった。

不満の理由・・・会場からの質疑応答が少し少なかったように思う。

2) ポスター掲示・情報交換会の感想

非常に満足：4 人、満足：33 人、ふつう：17 人、やや不満：1 人

満足の理由・・・発表内容をより理解することができた。発表者と気軽に直接意見交換ができた。

不満の理由・・・スペースが狭く、時間が短かった。交流できている人とできていない人の差が大きかった。

3) 今後参加してみたい講演・シンポジウムのテーマについて

多職種連携・・・21 人、子育て支援・・・14 人、急性期医療・・・14 人

学生の地域活動に対する意見

- ・地域の実習で学べることはたくさんあるのでそのような機会がもっとあれば良い。
- ・学生のうちから地域で学ぶことで専門職として働く前から視野が広がる。
- ・学生だからこそ地域に貢献できることもある。
- ・就労世代が地域活動に参加する機会が少ない。
- ・学生と地域との関わりは、卒後もその場所で発揮してほしい。



COC+就職説明会

本学 COC 事業では、4つの取組みの一つに「訪問看護の人材育成」を掲げています。神戸市は政令指定都市の中で、在宅で亡くなる方の割合が最も高い割合となっており、在宅での療養生活や看取りを支えるうえで重要となる訪問看護ステーションの数は、神戸市は全国 5 番目の多さです。昨年度初めて 3 年生を対象とした就職説明会において現役の訪問看護師 2 名をお招きし、訪問看護師としての経験談を語っていただきました。その座談会に参加した学生の 1 名が、今年初めて新卒ナースとして訪問看護ステーションへの就職が決まっています。もっと学生に訪問看護師の仕事を知ってもらおう、ということで今年度も就職説明会に訪問看護師をお招きしました。

- 就職説明会開催日：2017 年 12 月 18 日（月）
- 対象学年：3 年生
- 講師：新国内科医院 看護師長 宇野さつきさん



冒頭に宇野さんから訪問看護師で働く中出会った、ある利用者さんとのエピソードが紹介されました。その方は精神疾患を患い、がんにより余命 1 ヶ月もないと宣告された人です。最期は地域で過ごすことになりましたが、独居でごみ屋敷に住んでいることから、家に帰ることが容易ではないことが予想されていました。それでも地域でその方を支えるため、いろいろな職種が入り、家を片付け、訪問が入り、「コロッケが食べたい」という希望も叶え、最期は穏やかに息を引き取ったという事例です。地域こそ看護の専門が求められている、と話す宇野さんは、病院勤務の経験もあり「病院という場が病気中心の非日常」だったのが、地域で働くことが「その人の暮らしをみることができる。最期まで関わることの責任にもつながる」と話されました。訪問看護師は一人でアセスメントをしないといけない、信頼関係がないと家に上がらせてもらえない、などハードルが高いイメージがありますが、暮らしの中でじっくり関われるという点で、看護やケアの醍醐味を知ることができます。またゆっくりとケアにたずさわることができ、子育てしながらも働くうえでワークライフバランスがとれる職種というメリットもあります。座談会では学生の参加はありませんでしたが、ぜひこの話を頭のどこかに置いて、将来訪問看護師の道を目指す卒業生が増えてほしいと思います。

